

■**銭屋五兵衛** **豪商**。中年になって海運業に転じ、藩船藩米独占支配、河北潟埋立事業中、陰謀により、入牢し獄死。

ぜにやごへえ

大原騒動・・・1773＝ 加賀国金沢で、代々続く商家{銭屋}の長男に生まれる。

父は質商を営むかたわら醤油の醸造をしていたが、生活は豊かでなく、

幼時から、餅菓子を売りまわるなどして、家計を助け、

天明大飢饉始1782＝ **9歳**：

「天明期の不況のなか、

**田沼意次失脚**1786＝13歳：加賀・越中・能登の三州屈指の豪商栗崎の木谷藤右衛門の屋敷に奉公していたが、主人が事件に巻き込まれ、家督断絶・家財没収の危機となった際、一部の金を隠し、それを事業に投資して成功、落ち着いてから主人に差し出すと、感動した主人から、元金を除く利潤全てを与えられるなど、「**早くも商才を発揮**、初の横綱・・・1789＝16歳：「**商才を知った父の配慮で、早くも家督を相続。宮腰下通町の組合頭にも選ばれる。**

混浴禁止・・・1791＝**18歳**：「**町会長**となる。

**松平定信引退**1793＝20歳：

古事記伝・・・1798＝25歳：宮腰上越前町の家は弟に任せ、味噌屋町に新しい店を建てて転居、醤油製造・質商に加えて、古着商も兼営するが、目利きの番頭が得られず失敗、

伊能測量始・1800＝**27歳**：

宣長没・・・1801＝28歳：「**本町の組合頭**となる。

浮世風呂・・・1809＝**36歳**：この年、「**加賀藩に出仕した本多利明の影響を受けて、海へ乗り出すことを目指すようになり、**・・・1810＝37歳：「**質流れの古船を手に入れて修理、父と相談して米を運んでみたところ、大成功、ゴロツン拿捕** 1811＝38歳：「**喜んだ父が死去すると、その遺志を継いで、海運業に転じる。**

「**黒龍江の河口まで行って、現地民との間の独特の交易を体験、相手を信頼することで利益を上げる。**

**水野忠成老中**1818＝**45歳**：

異国船打払令1825＝52歳：「**父に見習って、早くも長男に家督を譲ったが、以後も経営に当たり、**・・・1826＝53歳：「**輪島屋与三兵衛と共同で1隻の船を購入したのを皮切りに、**日本外史・・・1827＝**54歳**：

「**以後、毎年1,2隻を購入、**

天保大飢饉始1833＝60歳：以降、年に2,3隻ずつと、「**さらに買い入れのピッチを早め、**

・・・1836＝**63歳**：「**<天保の大飢饉>による窮民蜂起で物情騒然となるなか、財政難にあえぐ加賀藩の負担を引き受けるのと引き換えに、御用船2隻の新造とその宰領役を獲得、十村格として苗字帯刀も許され、信用絶大となる。**

**大塩平八郎乱**1837＝64歳：

勅進帳初演・1840＝67歳：「**御用船が進水。加賀藩天保改革に際して御銀(御用銀)裁許、御手船裁許となり、**

「**以後、加賀藩の積極財政に呼応して拡大を続け、全国に支店34ヵ所、持船は約200艘を数えた、主に回漕業と米相場によって急速に巨富を成すが、**

**阿部正弘首座**1845＝**72歳**：

・・・1847＝74歳：「**彼を支持してきた家老・奥村栄美が死去して、体制が一変、**・・・1848＝75歳：「**御用船難破という痛手も受け、起死回生を図るべく陸に戻り、**

北斎没・・・1849＝76歳：「**可愛がっていた三男要蔵の希望を入れ、要蔵名義で河北潟埋立を申請、実権を握る長連弘を訪ねると、密貿易を奨励され、その利潤や高価な美術品を献上するように求められるも従うしかなく、**

尊徳報徳論・1851＝78歳：「**許可を得て、大規模な河北潟埋立新開に着手したが、漁民の反対を受けるとともに、**

**万次郎帰国**・1852＝79歳：「**密貿易が幕府に発覚しそうになって、全ての罪を五兵衛にかぶせようとした長連弘の陰謀から、善光寺参りに出た隙を狙われ、潟内に死魚が浮き、魚を食べて中毒死する者も出たため流毒の疑いをかけられ、その男子や関係者とともに捕らえられ、牢中で病死した。**

人物文庫「海の街道」、邦永史郎「豪商物語」、「人づくり風土記(石川)」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、